

前回担当した2020年1月の編集後記では、新年のご挨拶とともに今年開催されるはずであったオリンピック・パラリンピックを枕にして、国際化に伴う輸入感染症について書いた。想定していたのは、デング熱やジカ熱などの熱帯地域の病気が夏場の日本で再流行する懸念であった。しかし、全く別の感染症である新型コロナウイルス感染症が全世界的に流行して、すべてが変わり、3月24日にはオリンピック・パラリンピックの1年延期が発表された。

日本での状況を振り返ってみると、1月16日に武漢渡航歴のある感染者が日本で最初に報告され、2月3日に横浜港に寄港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号での集団感染が判明、その後感染が拡大して、国内感染者が3月21日には1,000人、4月3日には3,000人を、4月18日には10,000人を超えた。その結果、4月7日に7都道府県に、4月16日には全都道府県に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛が呼びかけられた。

3月以降、卒業式、入学式などの大きなイベントが中止となり、皮膚科でも研究会や学会の延期や中止が続いている。私の勤務している病院では、会議は原則中止で、ネットあるいは書面でのやり取りとなり、カンファや回診もなくなった。発熱外来が始まり、発熱や感冒様症状のある患者には受診の延期やiPadを用いた診療など、個別の対応を行った。不急の検査や手術は延期とし、患者の受診を必要最低限にするため、可能な場合には電話やメールでのやり取りで指示を出し、処方箋を送る形式をとった。私のように職場に感染症対策の専門家がいる勤務医は、指示に従って対応するだけでよかったが、開業の先生方は、自身で様々な情報を集めて感染のリスクに対処する必要がある。また、患者が減る中で固定費の負担も抱えて、大変な思いで毎日過ごされているのではないかと想像する。

幸いにも感染の第一波は収束に向かい、新規感染者数が減少して、5月14日、21日と段階的に緊急事態は解除され、5月25日には全面的解除が宣言された。第2波への備えは必要であるが、少し不安感や閉塞感から解放された気がする。8月には日本皮膚免疫アレルギー学会、9月には日本乾癬学会、日本美容皮膚科学会、延期となった日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会などが予定されている。これらの学会で皆様にお会いできるのを楽しみに、もうしばらく3密を避けながら生活していきたい。

(林 伸和)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第62巻 第7号 6月号 2020年6月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。